

令和2年度 学校評価報告書

学校名	三田市立あかしあ台小学校
-----	--------------

1 学校教育目標

こころ豊かに たくましく生きる 子どもの育成

2 今年度の学校重点目標

- 1 「確かな学力」の育成 2 「豊かな心」の育成 3 「健やかな心」の育成
- 4 多様な教育的ニーズに応じた教育の推進 5 開かれた学校づくりの推進

3 総合的な自己評価

学校運営については、「学校・家庭・地域が連携して、子ども達を見守り育てている。」「学校生活を通して、心豊かにたくましく生きる子どもの育成がなされている。」の項目において、97%の肯定的評価を得ている。

地域との連携も深まり、教育活動等において信頼と協力を得ることができている。

今後、引き続きコロナ禍での急な対処が課題である。

4 総合的な学校関係者評価

コロナ禍とはいえ、子ども達の読書量が増え、自覚を持って行動し、日々成長している様子が頼もしい。コロナ禍のため、制約の多い中でも行事などを工夫し、子どもは元気に学校生活を送っている様子がうかがえた。保護者や地域から学校に対する信頼感が高いと感じられる。ただ、生活パターンが変わり、家庭生活の中での変化が子ども達への負担になっていないか心配するところである。目標については良い。目標も数値化できるとよく見えてきて、具体的になるのではないかと。学校支援ボランティアとしての活動の中で、子ども達の活発な動きや笑顔を目にしなが、先生方・保護者・地域住民が連携して学校を育ててゆこうとする土壌が徐々に培われつつあるのを強く感じる。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
組織 運営	学校教育目標、学年・学級目標の実現をめざして、組織的かつ適切に教育活動を進めているか。	教育目標達成に向けて、日常生活と関連づけながら取り組みを進めることができた。	学校教育目標を基準にして、各学年目標を共通理解し、より具体的な取り組みを行っていく。	教育目標に向かって、各学年具体的な目標を掲げて、着実に子どもたちへの教育、保護者への対応がなされている。運動会や音楽会では、多くの制約がある中でも工夫を凝らし、どの学年も児童が楽しみと達成感を得られるものだった。目標を数値化し、何をいつまでにする、とすればもっと具体的で問題点が見えてくると思う。
	開かれた学校づくりのために、学校の情報が保護者・地域に積極的に発信され、相互の信頼関係が構築されているか。	学校地域運営協議会を開き、地域の方からのご意見をいただき、連携を深めることができた。	学校からの発信・地域からの発信を更に深めていき、学校運営を進めていく。	コロナ禍で地域との連携行事が部分的になってしまったが、熱心な学校支援コーディネーターが学校支援ボランティアとのパイプ役となり、子どもの見守り等で相互の連携と信頼関係が維持されていて、地域の人が学校の活動に関わる機会が多く、開かれた学校になっている。毎月の学校だよりで、運営協議会委員や見守り隊の方々に発信可能となった。紙面の情報はわかりやすいと感じる。
教育 課程・ 学習 指導	学習指導要領及び年間指導計画に基づいた各教科等の指導が適切に進められ、基礎・基本的な学力の定着が図られているか。	臨時休業に伴い、大幅なカリキュラムの見直しを行ったが、難しい授業時数の中で概ね履修達成することができた。	常に、授業時数の確認を行い、各教科の授業時数の確保の適正に務め、学力の定着を図る。	基礎的な学力が十分定着するように、より細やかな指導体制があるとよい。求められている授業時数の確保ができた事は評価できる。ただ児童にとって理解できるまでの時数が十分であったのかどうか気になる。先生方の行き届いた指導と努力でありがたく思う。各家庭の努力も大切である。
	児童の特性や教育的ニーズを把握し、個に応じた指導や配慮・支援体制を充実させているか。	外部関係機関との連携を図り、手立てについての示唆を得ることができた。	職員の共通理解を図るため、研修会を有意義なものとし、更なる支援体制の充実を目指す。	職員の共通理解は、教職員全員が持てる体制になっているのか知りたい。コロナ禍にも関わらず、短期間のうちに学校に適應してゆく子ども達の環境への適應力(しなやかさ)に目を見張る思いだった。本校の子どもたちの読書経験の豊かさに驚いた。読書タイムの設定や図書ボランティアの皆様の成果だと思う。
生徒 指導	自らあいさつができる児童を育て、他者との円滑なコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に取り組んでいるか。	全校朝会や学級指導などを通して、意識的に挨拶している児童が増えた。	児童会活動での取り組みや授業の中での協働学習を今後も継続していく。	児童の積極的に取り組む姿勢が少ないように思う。挨拶や活動の際、意識づけが必要だと思う。笑顔で挨拶すると恥ずかしそうにニコッと笑顔と返事を返してくれる。まず笑顔で接するのが大切かと思う。児童のアンケート調査から、大多数の子どもからは肯定的な返事が返ってきているが、数人から十数人の「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答があるのが気になる。自己肯定感が持てないということは、子どもたちの精神的発達の間証であるともとらえられるが、個々の生徒に目を向ける必要があるのではないかと。
	いじめ防止基本方針の下、指導体制を整え、児童の小さな変化を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいるか。	情報共有し、複数での指導体制を実施し、解決策を探った。	教師間の連携を図り、組織的対応を更に充実させるとともに、個別指導の対応力を高めていく。	情報共有され、連携体制が整っているのは安心できる。担任一人で抱え込むことのないよう、組織的に今後も対応していただきたい。多くの児童の変化をすぐキャッチするのはなかなか難しいことだが、悲しい気持ちになるところがないように沢山の目で見守っていただけるとよいなと感じる。

特別支援教育	個々の子ども達の特性に応じた指導体制や指導方法を工夫しているか。	個別の指導計画を作成し、効果的な支援・指導方法の共通理解を図った。指導補助員・学校生活支援教員を活用し、個に応じた指導に取り組んだ。	児童の課題の多様化に伴い、多様化する教育的ニーズに対応していくため、より一層の連携が必要となる。	先生方が個別対応で児童と深くかかわっていらっしゃるのとはとてもありがたいし、すごいことだと思う。関わる先生方の人員が少ないように感じる。いろんな個性のお子さんが指導補助員・学校生活支援教員の方と仲良く勉強などに取り組んでいる姿に忍耐力と優しさを感じる。中学校に進み、小学校と同じようにはなかなか難しいのではと気になる。
	共に学ぶ中で、個性や特性を認め合い、支え合おうとする態度の育成に取り組めたか。	配慮が必要な児童に対しての引継ぎを重視しながら、取り組みを進めた。	交流学习において、教員間の打ち合わせを密にし、情報共有の徹底を図り、支援の仕方を考えていく。	個々の子どもたちへの吟味された対応により、子どもたちの発達を見守られている。周りの子どもたちも教室の仲間として自然に受け入れているように見受けられる。子どもたちが成長し、長い人生をあかしあ台の中で幸せに過ごせるよう環境整備することが地域の課題であるように考えている。あかしあ台小学校の教育から学ばせていただく。
研究・研修	研究主題や実践目標の実現に向け、全職員が協働して主体的、積極的に研究を進めているか。	コロナ禍におけるの集団活動に対する制約はあったものの、事前の活動から振り返りまでの一連の活動の過程を共有し、各学級で取り組むことができた。	研究の意義や進め方の理解を、各担任が実践することを通して、深めていきたい。	教科の学習も大事だが集団活動を主とする学習にも重点を置き、将来、社会で必要な力を学び、蓄積できる機会を増やしてほしい。今年は参観日や研究授業の参観の機会が少なかったが毎回、子ども達が興味を持てるよう取り組まれている。授業を地域へ向けて広く公開することによって、先生方の教えることへの工夫や日頃の研究の成果が保護者や委員に見える化され、教えることの大切さと難しさが伝わってくるので、継続してほしい。
	自らの資質向上のために研修に取り組み、日々の実践の分析・評価及び指導方法の工夫・改善に努めているか。	年度の前半に、担当による提案授業及び研修を持ち、共通理解を図ることができた。	研究である特別活動と他教科、他領域との関連を意識しながら、一層の資質向上を目指す。	研究や研修で学べる一方、多忙にならないよう、教職員が気持ちの余裕を持てる工夫が必要。
保護者・地域住民との連携	地域人材(学校支援ボランティア等)を活用した教育活動が展開されているか。	地域コーディネーターとの連携を密にし、ソーシャルディスタンスに配慮しながら、学校支援ボランティアを活用した有意義な教育活動ができた。	継続した地域コーディネーターや学校地域運営協議会との連携の充実を図る。	ミシンボランティアや絵本の読み聞かせボランティアなど、地域人材を活用した学習ができています。コロナ禍の状況でも、配慮しながら上手く、地域人材を活用できる活動に取り組めた。地域の人々も高齢者が増え、無理のないボランティアができればと思う。地域から100人を超える学校支援ボランティアが登録され、コーディネーターの熱心な活動で登下校見守り・授業サポート・環境整備ができています。コロナの関係で本年度は関わる機会が少なかったが、地域と学校の連携から相互の理解が生まれ、先生・保護者・地域ボランティアとの信頼関係が広い意味でのコミュニティの良好なる形成につながっている。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
2020年7月	前期児童アンケート実施
2020年12月	後期児童アンケート・保護者アンケート実施
2021年2月	学校評価の結果・分析をもとに成果と課題の検証

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
2020年7月9日	第1回学校地域運営協議会(学校経営方針等について意見交換)
2020年10月24日	運動会(児童の様子を参観)
2020年10月29日	第2回学校地域運営協議会(学力向上への取り組みについて意見交換)
2021年2月25日	第3回学校地域運営協議会(学校評価結果に基づく成果と課題等について意見交換)緊急事態宣言延長により中止、文書で委員からの意見を聴取した。

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
2020年11月	学校だより	前期児童アンケートの結果と考察を掲載した学校だより「学校評価特集号」を全家庭に配付	資料1
2021年3月	学校だより	後期児童・保護者アンケートの結果と考察及び学校地域運営協議会委員の意見を掲載した学校だより「学校評価特集号」を全家庭に配付予定	
2021年3月	学校ホームページ	学校だより「学校評価特集号」を掲載予定	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います

※ 行は、適宜加除願います。